

2019年に特に注意を要する病害虫

道総研 中央農業試験場 病虫部 予察診断グループ

1. 成果の概要

北海道病害虫防除所、道総研各農業試験場、および道農政部技術普及課等で実施した病害虫発生予察事業ならびに試験研究で得られた結果から、2019年に特に注意すべき病害虫について報告します。

2. 2018年の病害虫の発生状況

2018年は、6月中旬から7月上旬の多雨により、小麦の赤かび病、たまねぎの軟腐病が多発しました。一方、この時期の多雨により、ばれいしょの疫病やてんさいの褐斑病でも多発が懸念されましたが、7月中旬以降の少雨傾向によって少発生にとどまりました。りんごの黒星病は、上記の多雨に加え、8月にも好適条件が見られたことから多発しました。

害虫は、多雨傾向によって全般的に加害活動や産卵等が少なくなったことにより、多くが少発生でした。

道内の主要病害虫の内、2018年に多発となったものを表1にまとめました。

表1 2018年に多発・やや多発した主要病害虫

作物名	病害虫名
水稲	イネミギワバエ
秋まき小麦	<u>赤かび病</u>
春まき小麦	<u>赤かび病</u>
春まき小麦(初冬まき)	<u>赤かび病</u>
小豆	落葉病
ばれいしょ	軟腐病
たまねぎ	<u>軟腐病</u>
りんご	<u>黒星病</u> 、 <u>斑点落葉病</u> 、 <u>腐らん病</u>

下線は多発生となった病害虫を示す

3. 2019年に特に注意を要する病害虫

1) りんごの黒星病

黒星病は、果実に病斑を形成することで著しい収量減の要因となる病害です。

2) りんごの腐らん病

腐らん病は、主幹や主枝、枝梢部に胴枯れ症状、枝枯れ症状を引き起こす病害です。



りんごの黒星病
(山名原図)



りんごの腐らん病
(西脇原図)